

各 位

2026年2月13日

会社名 グローバルセキュリティエキスパート株式会社
代表者名 代表取締役社長 青柳 史郎
(コード番号: 4417 東証グロース)
問合せ先 代表取締役副社長 原 伸一

2026年3月期 第3四半期決算に関する質疑応答集

2026年3月期 第3四半期決算を2026年1月30日に公表しましたが、その後、投資家様よりいただいたご質問と、その回答につきまして、以下のとおりお知らせいたします。

Q1. アンソロピックの新AIツールのリリースをきっかけに、情報通信業の株が広く売られました。AIがGSXのビジネスに与える影響を教えてください。

このたび情報通信業の全面株安は、AIに代替されることで事業が縮小または無くなるのではないかと予想されたことが、きっかけであると認識しております。

しかしながら、当社にとってのAIは、当社サービスの需要をより一層高めるものであり、さらに、当社の生産性向上に大きく寄与するものであると考えております。

日本のサイバーセキュリティ市場において、当社のユニークなポジショニングは、準大手・中堅・中小企業を顧客ターゲットにしている点にあります。この市場セグメントは、高度なAIツールを導入するだけでは使いこなすことが難しく、当社の専門家による「最適化」や「実装支援」を必要としています。

例えば「脆弱性診断サービス」においては、既にAI機能を搭載している自動診断ツールが普及しており、当社でも活用しております。しかし、お客様が本当に必要とするのは、自動診断ツールの結果を、どう判断し、どのように対処していくべきなのか、お客様それぞれの状況を読み取り、最適な方法を示す指南役です。

これこそが、この先のAI時代においても当社の「人間が介在する」ビジネスモデルが必要とされ続ける理由です。

その他、AIが当社のビジネスに影響している具体例は、以下のとおりです。

■お客様企業でAIの活用が進むなかで、安全にAIを利用できているかのセキュリティ調査や、安全にAIを利用するためのセキュリティガイドライン策定といった需要が増えております。セキュリティコンサルティングの新たなビジネスが生まれています。

■セキュリティに配慮してAIを活用するためのスキルを身に着けたいというご要望を多くいただいております。そのため当社では、AIのためのセキュリティ、セキュリティのためのAIをテーマにした認定資格講座を開発しました。セキュリティ教育事業の新たなラインナップとなります。

■当社がお客様にサービスを提供する過程の一部にAIを活用することで、生産性を向上させる取り組みを進めております。これにより、当社の利益率向上が期待されます。

Q2. 第3四半期の売上高と営業利益の進捗について、通期業績予想（売上高110億円、営業利益22億円）の達成可能性について見解を教えてください。

売上高、営業利益ともに計画通りの進捗だと評価しております。

例年、当社の売上高は、第1四半期が少なめで、第2四半期から第4四半期にかけて上がっていくきます。当第3四半期の通期業績予想に対する進捗率は直近2事業年度と同等の71%でした。

営業利益についても、直近2事業年度と同様の推移をしておりますので、通期業績予想の達成に向けて順調に進んでいると認識しております。

以上